

2024 年度

学校推薦型選抜

長野県立大学

グローバルマネジメント学部

グローバルマネジメント学科

**設問**

問1 本文の趣旨として、適切なものを全て選んでアルファベットを解答欄に記載しなさい。適切なものがない場合には、「なし」と解答欄に記載しなさい。

- A：環境政策の手段である「固定価格買取制度」とは、政府が事業者に対して規制を課す手法であり、直接的支援を行う政策ではない。
- B：大規模な人的被害が発生した自然災害のおよそ 7 割が水害である。
- C：統計的に、「環境税」と「排出量取引制度」が 3 年後、「排出量基準」が 5 年後の貿易収支を黒字方向に変化させる効果は確認されていない。
- D：我が国では GDP 対比でみたベンチャーキャピタル投資の規模が他の OECD 諸国対比で潤沢で、諸外国と比べても遜色のないものとなっている。

問2 本文の趣旨として、適切なものを全て選んでアルファベットを解答欄に記載しなさい。適切なものがない場合には、「なし」と解答欄に記載しなさい。

- A：環境政策手段のうち、「環境税」・「排出量基準」・「R&D 補助金」は、ほぼすべての国で導入されている。
- B：環境政策を強化すると貿易収支に悪影響となる。
- C：我が国の環境政策は他の OECD 諸国と比べて全般的に劣っている。
- D：今後、日本国内のグリーン投資を増やす必要はない。

問3 本文の趣旨として、適切なものを全て選んでアルファベットを解答欄に記載しなさい。適切なものがない場合には、「なし」と解答欄に記載しなさい。

- A：OECD による環境政策指数は、4 つの大項目から構成される。
- B：環境規制の導入に際しての議論では、短期的に発生する社会的コストにのみ注目すべきである。
- C：環境政策の強化により、経済成長を促す可能性がある。
- D：環境政策における「R&D」補助金は、無駄な政策といえる。なぜならば、国民 1 人当たりの GDP を統計的に有意に押し下げているからだ。

問4 本文の趣旨として、適切なものを全て選んでアルファベットを解答欄に記載しなさい。適切なものがない場合には、「なし」と解答欄に記載しなさい。

A：我が国では、「排出量取引制度」と「排出量規準」が十分に活用されてきた。

B：我が国の「排出量取引制度」の規制は、OECD 諸国のそれよりも厳格である。

C：我が国の環境関連の特許出願数は世界最低水準にある。

D：GDP を 1 単位生み出すためにどの程度のエネルギーを消費したかを示すエネルギー原単位を元に考えたとき、日本のエネルギー効率は英国より高い。

問5 本文の趣旨として、適切なものを全て選んでアルファベットを解答欄に記載しなさい。適切なものがない場合には、「なし」と解答欄に記載しなさい。

A：温室効果ガス排出削減に向けた計画の実行に至っている企業は多くない。

B：気候変動対策は、日本の地理的特徴からして、日本が積極的に取り組むべき重要な課題ではない。

C：1970 年代の公害対策意識の高まりを踏まえて採られた厳しい排ガス規制の設定と自動車産業の競争力強化との組み合わせは、環境政策における規制・支援一体型の例の 1 つである。

D：研究開発効率において、「自前主義」、「ブラックボックス化戦略」は現在も有効な戦略といえる。

問6 本文の述べる、我が国の企業が脱炭素化に向けて方針策定を進めていく上での課題のうち、いずれか 1 つを選んで説明し、解決の方策について自身の考えを述べなさい。解答はあわせて 800 字以内とすること。

